

## ITT 油田生産開始で OPEC 減産合意に苦慮するエクアドル

(Platt's Oilgram News, International Oil Daily, Business News Americas 他)

1. エクアドルの石油生産量は、2007年に就任した Correa 大統領が資源ナショナリズムを反映した石油政策をとったことで、いったん減少したが、石油会社との契約形態が PS 契約からサービス契約に変更された後は、増加に転じ、2014年には過去最高の 55.7 万 b/d を記録した。
2. エクアドルが石油生産量を増加、維持できている背景には、中国等と Loan for Oil を締結、石油で返済を行なうことで融資を得られていることがあると考えられる。しかし、エクアドルは融資返済のために、石油生産量を増加、維持せざるを得ないとの見方もある。
3. 2014 年中ごろからの原油価格下落を受けて、エクアドル政府は、原油価格がサービスフィーを下回った場合その差額はサービスを提供する企業に対する Petroamazonas の債務として計上され、油価が上昇した時に支払われることになるとした。そして、契約失効時に債務が残っていた場合は、国の債務は消滅することになるとした。2015 年後半になると、サービスフィーが支払われなかったため、操業に影響が出るようになり、生産量が減少する油田もある。エクアドルは 2016 年 1 月からサービス契約の見直し交渉を行ない、一部のサービスフィーを引き下げた。
4. 環境保護のため長く開発が棚上げされていた ITT 油田のうち、Tiptuni 油田が 2016 年 9 月 7 日に生産を開始した。生産量は当初約 2 万 b/d であったが、12 月には 3 万 b/d 超まで増加したという。Ryder Scott が再評価を行ったところ、3 つの独立した油田とみなされていた ITT 油田は地下で繋がっており、確認埋蔵量が当初考えていた 9.2 億 bbl よりも 7.5 億 bbl 多く、16.7 億 bbl であることが判明した。一方で、Ivanhoe が、同社の技術では契約上の条件を満たす合成石油の製造は不可能と判断し Block20、Pungarayacu 油田の開発から撤退、Petroecuador が PDVSA とともに合弁企業 Río Napo を設立し、開発を行なっていた Block60 の Sacha 油田については、PDVSA が財務諸表を提出しないため Río Napo が解散に追い込まれる等、期待された結果を得られないプロジェクトもある。
5. 2016 年 11 月 30 日に OPEC 総会で決議された減産合意で、エクアドルは 2017 年 1 月から 6 月まで 26,000 b/d の減産を実行し、生産量を 52.6 万 b/d とすることとなった。しかし、どの油田の生産量を減らす等の報道はなく、ITT 油田を除く Petroamazonas 保有の油田が減産の対象になるだろうと見られている。国内には、エクアドルの原油生産量は少なく、減産を強制されるのであれば OPEC から脱会すべきであるとの意見も出ているという。
6. Correa 大統領の任期は 2017 年 5 月までとなっており、大統領選挙戦をリードする Lenin Moreno 前副大統領が大統領に就任することになれば、現政権よりも石油会社が参入、活動しやすい政策がとられると見られている。ITT 油田の生産も始まり、これから石油生産量を増やしていくというタイミングにあるエクアドルが OPEC の生産削減合意をどのように守っていくのか、動向を注視したい。

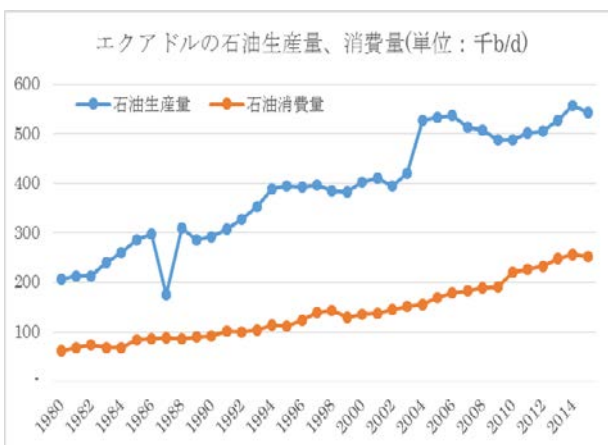
### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

## 1.安定した石油生産を維持

エクアドルでは、2003年に東部オリエンテの産油地帯と太平洋岸のBalao港を結ぶ重質油専用のパイプライン、OCP(送油能力45万b/d)が完成した。その結果、それまで東部と太平洋岸を結ぶ唯一のパイプラインであったSOTEの送油能力41万b/dに合わせて、40万b/d前後を推移していたエクアドルの原油生産量が50万b/dを超えるようになった。同国最大のITT(Ishpingo-Tambococha-Tiputini)油田の開発が進めば、石油生産量はさらに増加するとみられていた。しかし、2007年に大統領に就任したCorrea大統領は、資源ナショナリズムを反映した石油政策をとり、石油会社に対して契約形態をPS契約からサービス契約に変更するよう求めた。そのため、2010年8月以降、ENAP、Andes Petroleum(CNPC、Sinopecから成るジョイントベンチャー)、Petroriental、Agip-Eni、Repsol等10社が新契約への変更に合意、Petrobras、EDC(Noble Energy子会社)、Canadá Grande(韓国)等6社がエクアドルから撤退した。

Correa政権が成立したことを受け、エクアドルでの探鉱・開発は停滞し、2007年以降、エクアドルの石油生産量は減少し、2009年には48.8万b/dと再び50万b/dを下回るようになった。しかし、2011年以降、エクアドルは中国等から融資を得、国営石油会社が直接サービス会社と契約することで石油生産量を増加、維持させている。石油生産量は2014年に過去最高の55.7万b/dを記録した後、2015年には54.3万b/dと若干減少したものの、2016年上半期には55.1万b/dに回復した。



(出所:BP Statistical Review of World Energy-2016)

## 2.増大する中国等からの融資

エクアドルは2009年以降、毎年のように中国とLoan for Oilに関する契約を締結、中国から融資を得、Petrochinaに石油で返済している。2015年は年初にCorrea大統領が中国を訪問、支援を要請し、中国政府からPacifico製油所や水力発電所建設のため75億ドルの借款・融資・投資の約束を取りつけたものの、中国の景気後退により途上国への支援方針が変更され、期待されたような融資等は行なわれなかった。しかし、2016年は、合計で29.2億ドルの融資を得、2024年までにPetrochinaに2億5,730万bbl

### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

の原油を引き渡すことを約束している。なお、PetroChina への原油引渡しは FOB ベースで行なわれており、仕向け先は Petrochina の自由裁量となっている。

表 1. エクアドルの中国との Loan for Oil の状況

契約締結年	融資額	原油供給量	原油供給期間
2009 年	10 億ドル	6,900 万 bbl	2009 年 7 月～2011 年 7 月
2010 年	10 億ドル	6,180 万 bbl	2010 年 8 月～2014 年 8 月
2011 年	20 億ドル	1 億 1,880 万 bbl	2011 年 6 月～2016 年 12 月
2011 年	N.A.		
2012 年	N.A.		
2013 年	20 億ドル	1 億 9,000 万 bbl	期間不明、4 年間
2016 年	9.2 億ドル	7,630 万 bbl	2016 年 1 月～2021 年 1 月
2016 年	20 億ドル	1 億 8,100 万 bbl	2016 年 4 月～2024 年 4 月

(各種資料より作成)

Petroecuador は 2015 年には、1 億 1,660 万 bbl の Oriente 及び Napo 原油引き渡すことを条件に、25 億ドルの融資を受ける契約をタイの PTT と締結した。財務省は、PTT と合意した金利は 6.97% で、契約期間は 5 年半、5 億ドルはすでに入金済みで、1.35 億ドルは 2016 年中に入金、残りは契約期間中に原油引き渡しスケジュールに沿って送金されると発表している。さらに、2016 年 12 月にも Petroecuador は PTT と同様の契約を締結し、約 6 億ドルの融資を得た模様であるが、詳細は不明である。

さらに、Petroecuador は 2016 年 12 月 6 日に、3 億ドルの融資を得、30 ヶ月にわたりこれを石油供給で返済することで Oman Trading International と協定を締結した。返済する石油の量等は不明である<sup>1</sup>。

このように、中国等から融資を得、資金を確保することで、石油生産量を増加させ、維持しているものの、エクアドルは生産される石油の多くを返済に充てなくてはならず、そのために、さらに石油生産量を増加、維持させなくてはならない、生産量を増やしても返済に充てるばかりで実入りはないというジレンマに陥っていると見る向きもある。エクアドルは 2026 年まで原油輸出可能量の約 80% を Petrochina に引き渡さなくてはならない<sup>2</sup>との見方もある。

### 3. 原油価格低迷によるサービス契約への影響

エクアドルで結ばれているサービス契約では、原油価格から国有財産税 25%、取引コスト・輸送費等 1.10 ドル/bbl を差し引いた残りの一部がサービスフィーとして支払われている。2014 年中ごろからの原油価格下落を受けて、Pedro Merizalde 非再生天然資源大臣は、原油価格がサービスフィーを下回った

<sup>1</sup> LatAmOil 2016/12/20

<sup>2</sup> El Universo 2016/6/8

#### Global Disclaimer (免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

場合、その差額はサービスを提供する企業に対する Petroamazonas の債務として計上され、油価が上昇した時に支払われることになると発言した。そして、契約失効時に債務が残った場合は、国の債務は消滅することになると説明した<sup>3</sup>。また、原油価格がサービスフィーを下回る状況が長期化した場合、企業は自己責任で生産を継続するリスクを負うとした<sup>4</sup>。すなわち、サービスを提供する企業はただ働きを余儀なくされる場合もあるというのだ。

2015 年後半には、サービスフィーが支払われないため、操業に影響が出るようになり、一部の油田の生産量が減少しているという<sup>5</sup>。2016 年初には、Petroamazonas のサービスフィーの未払い額が 2 億ドルに達しているとの情報も伝えられた<sup>6</sup>。

エクアドルは 2016 年 1 月からサービス契約の見直し交渉を開始、4 月に Schlumberger、Halliburton、Sinopec が率いるコンソーシアムと 2010 年に締結した成熟油田に関する 9 本のサービス契約を結びなおした。30 ドル/bbl 程度であったサービスフィーは 10～15 ドル/bbl とされた。ただし、WTI の価格が 75 ドル/bbl まで上昇した場合には、サービスフィーは 35 ドル/bbl に引き上げられる。これらの油田に関しては、今後 5 年間に 10 億ドルを投じ、2018 年までに生産量を現在の 74,061b/d から 3 万 b/d 増やすとしている<sup>7</sup>。残り 9 油田については Belorusneft、YPF 等と交渉中で合意に達しない場合は契約解除となるという。

表 2. サービスフィーの変更 (単位:ドル/bbl)

企業	油田	変更前のサービスフィー	変更後のサービスフィー
Paaturi (Sinopec)	Indillana	36.8	14.0
	Yanaquincha	36.8	14.5
	Limoncocha	36.8	14.5
Schlumberger Tecpetrol	Edén Yuturi	32.21	12.0
	Pañacocha	32.2	11.5
Halliburton	Lago Agrio	36.5	13.7
	Palo Azul	36.5	14.5
	Pucuna	36.5	14.5
	Victor Hugo Ruales	36.5	13.0

(各種資料より作成)

#### 4. 油田別開発・生産状況

エクアドルの主要生産地域は東部オリエンテのアマゾンの低地に位置しており、サービス契約に基づ

<sup>3</sup> El Comercio 2014/12/4

<sup>4</sup> El Comercio 2015/8/24

<sup>5</sup> El Comercio 2015/12/24

<sup>6</sup> El Comercio 2016/1/13

<sup>7</sup> El Comercio 2016/4/5、Rigzone2016/4/4、PN 2016/4/5

#### Global Disclaimer (免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

いて探鉱・開発が行なわれているが、上記の通り原油価格低迷もあり、その進展は遅れがちとなっている。各油田の開発・生産状況は以下の通りである。

### (1) 生産が始まった ITT 油田

エクアドル東部、ペルーと国境を接する Block43 に位置する ITT 油田は、1990 年代初めに発見されたが、地球上で最も生物多様性に富んだ地域の一つとされるエクアドル最大の自然保護区で、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）から生物圏保存地域の指定を受けている Yasuni 国立公園内にあるため、環境への影響の懸念等の理由で開発が行われない状態が続いていた。特に、Correa 大統領は、エクアドルが ITT 油田の開発を中止する代わりに、同油田を開発した場合に得られる見込みの収入 72 億ドルの半分にあたる総額 36 億ドルをエクアドルに寄付するよう国際社会に求め、開発を控えていた。

しかし、十分に寄付金が集まらなかったため、2013 年 8 月 15 日、Correa 大統領は、同油田の開発を決定、10 月 3 日には国会が ITT 油田開発は国益に資するとして開発を承認した。2014 年 5 月 22 日に ITT 油田開発のための環境ライセンスが付与され、Tiputini 油田(Yasuni 公園外)開発のため Napo 河岸に Miranda 港と操業キャンプ建設が開始された。2016 年 3 月には Sinopec と Tiputini 油田での油井掘削のサービス契約(契約期間 3 年)を締結し、掘削が開始された。同年 9 月 7 日に同油田の生産が始まり、生産量は当初約 2 万 b/d であったが、12 月 20 日には 30,306b/d まで増加したという。2016 年 12 月までに 3.76 億ドルが同油田の開発に投じられ、水平坑井を中心に 19 坑が掘削された。生産される原油は API 比重 14～15 度の超重質油で、西隣の Block31 を経て Edén Yuturi の原油集荷基地にパイプラインで輸送し、他の原油と混合されている。

2016 年 9 月に Petroamazonas の Alex Galárraga 総裁は、2025 年までの 10 年間に ITT 油田開発に 62.16 億ドルを投じ、600 坑の坑井を掘削する計画を以下の通り明らかにした。

表 3.2025 年までの ITT 油田開発計画

	プラットフォーム数	油井数	生産コスト(ドル/ bbl)	開発投資額
Tiputini	11	237	11.46	24.51 億ドル
Tambococha	4	71	9	8.16 億ドル
Ishpingo	10	292	10.71	29.47 億ドル
合計	25	600	10.39(平均)	62.16 億ドル

(出所:El Comercio 2016/9/27 を基に作成)

Petroamazonas は 2017 年の ITT 油田の開発は計画通りに進めるとしているが、Tiputini の生産量は当初 2016 年末 4 万 b/d、2017 年 5 万 b/d と計画されており、すでに遅延の兆候が現れている。また、Tambococha 油田の生産開始は当初 2017 年 6 月とされていたが、開発が遅れているという。

なお、Petroamazonas によると、Ryder Scott が再評価を行ったところ、3 つの独立した油田とみなされていた ITT 油田は地下で繋がっており、確認埋蔵量が当初考えていた 9.2 億 bbl よりも 7.5 億 bbl 多く、16.7

#### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

億 bbl であることが判明した。

## (2) Block20、Pungarayaku 油田開発から Ivanhoe が撤退

Petroecuador は 2008 年にカナダ企業 Ivanhoe と Block20、Pungarayacu 油田(原始埋蔵量 45～70 億 bbl、API 比重 8～12 度)のサービス契約(契約期間 30 年)を締結、同油田の探鉱・開発に 40 億ドルを投じ、2009 年に 5,000b/d で生産を開始、2013 年末には 10.8 万 b/d、ピーク時には 12 万 b/d を生産し、合成石油を製造することを計画した。しかし、2014 年 2 月に Ivanhoe は同社の技術では契約上の条件を満たす合成石油の製造は不可能と判断し、同鉱区から撤退すると発表、また、財務的に経営困難に陥ったとしてカナダ司法当局に会社更生法に基づく再生手続きを申請した。同年 8 月には Petroamazonas が Ivanhoe とのサービス契約を解除すると発表、Ivanhoe との契約終了手続きが終わり次第、CNPC と契約交渉に入るとした。Ivanhoe は Block20 の超重質油の開発に 5 年間に 7,500 万ドルを費やし、5 坑を掘削、Pungarayaku 油田の可採埋蔵量を当初の 9 億 6,000 万 bbl から 3 億 1,600 万 bbl に下方修正した。

## (3) Sacha 油田開発から PDVSA が撤退

Block60、Sacha 油田は、1969 年に Texaco-Gulf が発見、1972 年に生産を開始した油田である。2008 年に Petroecuador70%、PDVSA30%の資本構成で設立された Rio Napo が 2009 年 11 月より同油田で操業を行なってきた。しかし、2015 年 7 月、エクアドルの会社監督局が、PDVSA が 2013～2015 年の財務諸表を提出していないので、同社の事業活動は停止していると認定、Rio Napo を解散するよう命じた。Rio Napo は 2016 年 8 月 1 日付で解散されることとなり、同油田の操業は Petroamazonas が引き継ぎ、Rio Napo が現地企業や取引先に対して支払いを行なっていなかった債務約 4,000 万ドルも Petroamazonas が引き受けることとなった。同年 11 月に PDVSA と Rio Napo 解散について合意が成立した。エクアドル政府は PDVSA に代わって中国企業 Cerg が同プロジェクトに参画することについて交渉中であり、近く合意できる見込みとされている。

## (4) Auca 油田の開発について Schlumberger とサービス契約締結

Schlumberger は 2015 年 12 月、Block61、Auca 油田の開発について Petroamazonas とサービス契約を締結した。Auca 油田は 65,000 b/d を生産しているが、Schlumberger は 20 年間で 49 億ドルの投資を行い、生産量を 20,000b/d 引き上げる計画である。サービスフィーは 3 ステージに分け、第 1 ステージ 24 ドル/bbl、第 2 ステージ 25.8 ドル/bbl、最終ステージ 27.37 ドル/bbl (平均で 26.05 ドル/bbl)とされている。投資額には Petroamazonas への 10 億ドルの融資が含まれており、同社の予算に組み入れられる<sup>8</sup>。Auca

<sup>8</sup> El Comercio 2015/12/15

### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

油田は Shushufindé 油田に次ぐエクアドル第 2 の油田で Petroamazonas の生産量の 1/5 を占めている。

### (5) Block31 の生産量増加

Block31 は 2009 年に権益を保有していた Petrobras から返還され、2011 年に Petroamazonas に権益が移転された。2013 年から Apaika-Nenke 油田の生産が開始され、生態系保全に十分な配慮を行いつつ、2015 年 11 月には生産量が 9,500b/d まで増加した。同油田で生産される原油の API 比重は 14.5～16 度となっている。



エクアドル主要鉱区、油田、パイプライン図

(各種資料より作成)

### (6) 南東部でも探鉱実施

政府は 2013 年 11 月に南東部の 16 鉱区を対象に第 11 次ライセンスラウンドを実施した。対象鉱区は未開発地帯に位置し、インフラがなく、開発は困難とみられたが、4 鉱区が落札された。

このうち Block28 に関しては、Petroamazonas と Belorusneft 及び Enap が契約締結に向け交渉を行っていた。しかし、サービスフィーが 52 ドル/bbl と高かったため、2015 年 2 月に原油価格下落の影響によ

#### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

り交渉はいったん中断された<sup>9</sup>。その後、Enap、Belorusneft が 3,000 万ドルを投資して探鉱を開始することで合意が成立し、同年 4 月 16 日に契約が締結された。4 年間に 1 億ドルが投じられることが見込まれている<sup>10</sup>。

また、Block79 及び 80 に関しては、2016 年 1 月 25 日に、政府が Andes Petroluem(CNPC 及び Sinopec の JV)とサービス契約を締結した。契約期間は 5 年で 2 年延長することが可能である。投資額は 7,200 万ドル、サービスフィーは 41～47ドル/bbl とされた<sup>11</sup>。

第 11 次ライセンスラウンドの際には札が入らなかつた Block86 に関しても、2014 年 7 月 31 日から 8 月 1 日にかけて、Pedro Merizalde 非再生天然資源大臣とペルーの Eleodoro Mayorga エネルギー鉱山大臣が会談し、ペルーの Block192 と合わせて両国が共同して探鉱することで合意した。両国で独立系のコンサルタントを起用し両鉱区の埋蔵量と開発の実現性を決定する。また、同時にアマゾン南部の Block71、73、76、77、78 及びペルー側 Block64 の石油・天然ガスのポテンシャルの調査も行なうとした<sup>12</sup>。

## 5.OPEC 生産削減への対応に苦慮

エクアドルは 2015 年の石油生産量が 54.3 万 b/d、確認埋蔵量が 80 億 bbl と大産油国ではないが、石油部門が GDP の 1 割、歳入の 3 割、輸出の 5 割を占めており、OPEC にも 1973 年に加盟、1992 年に一旦脱退したものの、2007 年に再加盟している。

2016 年 11 月 30 日に OPEC 総会で決議された減産合意で、エクアドルは 2017 年 1 月から 6 月まで 26,000 b/d の減産を実行し、生産量を 52.6 万 b/d とすることとなった。総会に出席をした Guillermo Long 外相は、OPEC の決議を尊重するが ITT 油田の生産増が予定されることから、減量をどのように割り当てるか Petroamazonas と擦り合わせ合わせていきたいと述べた。その後も、どの鉱区から減産を実施するか決定したとの報道はないが、生産が開始されたばかりの ITT 油田の開発を中止する訳にはいかず、Petroamazonas 保有の他の油田が減産の対象になるだろうとみられている。国内にはエクアドルの原油生産量は少なく、減産を強制されるのであれば OPEC から脱会すべきであるとの意見も出始めているという。

## 6.おわりに

エクアドルはサービス契約のもと生産量を増加させ、油価低迷にも契約改定で対応、国営石油会社もコスト削減や人員削減、効率向上を図ってきた。Correa 大統領の任期は 2017 年 5 月までで、2 月には大

---

<sup>9</sup> El Comercio 2015/2/4

<sup>10</sup> El Universo 2015/4/17

<sup>11</sup> El Universo、El Comercio 2016/1/26

<sup>12</sup> Enami EP HP 2014/8/8

### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。



統領選挙が行なわれる。新政権は油価低迷の影響や Loan for Oil の返済による経済状況の悪化に直面することになるとは考えられるが、選挙戦をリードする Lenin Moreno 前副大統領が大統領に就任することになれば、現政権よりも石油会社が参入、活動しやすい政策がとられると見られている。ITT 油田の生産も始まり、エクアドルはこれから石油生産量を増やしていくというタイミングにあったと考えられる。このような状況下、エクアドルが OPEC の生産削減合意をどのように守っていくのか、今後の動向を注視していきたい。

以 上

**Global Disclaimer(免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。